

公表:2020年 3月29日

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			10人以上の利用になるとロッカーが不足したり個別のエリアを使用するのが難しくなるため別訓練室や他部署のスペースを借りて活動をしている。屋外活動では公共施設を利用する事もある。
	②	職員の配置数は適切であるか	○			国の指定基準に沿った職員配置をしている。有資格者(社会福祉士、保育士)を配置し丁寧な療育を提供できるよう努めている。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	○			子ども達の特性に合わせた構造化を行っているが、入り口に段差があったりエリアごとに仕切っているため足元の不安定な子どもに対しては1対1で見守り手をつないで誘導するなど配慮をしている。療育に必要な持ち物や準備物等に関しては視覚化した文書でお知らせするなど子ども達にも保護者にもわかりやすい伝え方を心がけている。
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に広く職員が参画しているか	○			全スタッフ、半期に一度業務目標を設定し、自己・上司評価を行い振り返りをしている。
	⑤	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			保護者向け事業所評価のアンケートを実施し意向等の把握を全スタッフで共有している。苦情や不明な点として上がった案件については速やかに対応、改善を図るようにしている。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			年度末にアンケート調査を行っている。保護者からの課題把握を行い、次年度の事業計画へ反映されるよう努めている。結果は法人のホームページへ掲載し公開している。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			○	今後、取り入れる可能性はあるが時期は未定。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			地域療育センターの施設支援事業で県子ども総合療育センターの専門職員(心理療法士等)に来所してもらい定期的に研修、支援を受けている。その他、園内外、自主研修等積極的に参加し専門的知識が得られるようにしている。又年に6回療育スーパーバイザーから支援内容の助言・アドバイスを頂いている。

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
適切な 支援の 提供	⑨ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○			アセスメントは児童発達支援管理責任者、担当職員も同席して行い、ニーズや課題を整理。支援計画(案)についてスタッフで会議を行い作成している。
	⑩ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			アセスメントシートを使用。本人の状況を加味して聞き取りを行っている。家族・本人の基本情報は一年に一度前期面談で取り直しを行い変更があれば後期面談で追記、訂正を行う。
	⑪ 活動のプログラムの立案をチームで行っているか	○			個別のスケジュールは担当職員が組み立てているが集団活動や戸外での活動は皆で話し合い内容を決めている
	⑫ 活動のプログラムが固定化しないように工夫しているか	○			外部専門家の助言をもらったり研修で学んだことを取り入れている。今後も、子どもの発達状況、年齢に応じ、楽しめる活動を工夫していく。
	⑬ 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定支援しているか	○			休日・長期休暇時は授業終了後の時間では取り組みにくいクッキングや外出等体験型の活動を入れている。
	⑭ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			個別活動では家事や身辺処理スキルの向上を図り、集団活動では社会性(コミュニケーション、ルール、マナー)等を個別の課題に応じ作成している。
	⑮ 支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			全スタッフ揃うことが難しい日もあるが、朝礼で引継ぎや送迎について確認を行い情報を共有するようにしている。グループ活動をする際は内容の打ち合わせを行っている。
	⑯ 支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			送迎以外の残留スタッフで行うことが多いが、翌日に報告したり時間を設けたりして共有している。
	⑰ 日々の支援に関して記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			個々の担当スタッフでその日のねらいを設定、評価をしながら翌回のねらいを考えているが、チーム全体での検証・改善については今後もレベルアップできるよう努めていく。
	⑱ 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	○			モニタリングでは、子どもと保護者との面談を通して支援の達成度や満足度等の把握を行い、支援の方向性の確認を行っている。
⑲ ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか。	○			地域交流では近く的美容室を利用して散髪の練習をしたり、買い物学習を行っている。	

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
関係機関や保護者との連携	⑳ 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			直接支援に携わっている担当職員が出席している。ケースに応じて児童発達支援管理責任者も同席。
	㉑ 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時間の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	○			年間計画は年度初めに各学校から頂いている。週によって下校時間が変わる子どもはFAXを頂くようにしている。事業所の携帯電話がある為、保護者や関係機関に番号を通知し、連絡を取りやすいように努めている。又、前月20日以降に利用予定カレンダーを保護者・関係機関に渡し、利用日の確認を行って頂いている。
	㉒ 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか		○		現在医療ケアが必要なお子さんが在籍していない。
	㉓ 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所との間で情報共有と相互理解に努めているか	○			相談支援のモニタリングには積極的に参加し、場合によっては担当者会議を要望し、相互理解に努めている。
	㉔ 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供しているか	○			次に繋がる障害福祉サービス事業所等を含めた担当者会議を相談支援員の下、行っている。法人内の生活介護に繋がる場合はその後も連携を図っている。
	㉕ 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○			圏域の療育相談員の助言を受けたり、県こども総合療育センターの専門職より定期的に支援を受けたり、熊本県北部発達障害者支援センターわっふるの研修に参加している。
	㉖ 放課後等児童クラブとの交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか			○	保護者からの要望がない為、今後も取り入れる予定はない。
	㉗ (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	○			子ども部会に児童発達支援管理責任者が参加している。(年6回)
	㉘ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			連絡帳や電話、送迎時に子どもの様子についてお伝えし共通理解を持って取り組んでいる。
保護者への説明責任等	㉙ 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	○			ペアレント・トレーニングは行っていないが、家庭の状況に応じて自宅を訪問し、面談、困りごとへの対処を提案したり共通の手順書を用いて関わり方の助言を行っている。
	㉚ 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			重要事項説明書で具体的な内容説明を行っている。利用負担金に関しては、別紙単価表を作成し、利用料の内訳(加算の内容説明、金額等)を示し、配布、保護者確認後署名を頂いている。職員体制等で変更が生じた場合は重要事項説明書を訂正し保護者に通知している。
	㉛ 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に応じ、必要な支援と助言を行っているか	○			面談や連絡帳、送迎時に家庭での対応で困っていること等の相談をうけている。家庭で取り組めそうなことをスモールステップで優先順位を考えながら助言している。

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
保護者への説明責任等	③② 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか		○		現在、父母の会や保護者会の運営はない。年に一回年長児対象に親子遠足を実施しており保護者同士の交流も目的としている。単独型通所のため保護者同士のつながり、交流の場を検討していく必要がある。地域で保護者向けの研修会等あればお声掛けしていく。
	③③ 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			苦情受付の体制を整備し重要事項説明書に記載、保護者に対し説明を行っているが子どもには周知されていない。相談や要望が上がった際は職員間で共有し対応・改善を図っている。
	③④ 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか		○		個別療育を行っているため、活動の様子(外出・調理・季節のイベント等)は一人ひとりに写真を渡したり、お知らせをしている。全体に向けての連絡事項は文書で発信している。
	③⑤ 個人情報に十分注意しているか	○			個人が特定される書類等は郵送や手渡し、シュレッダーでの取扱いに気を付けている。個人情報が入ったキャビネットは施錠し、鍵は金庫で保管している。
	③⑥ 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			子どもたちとコミュニケーションを取る際はその子どもの状況に応じ写真や絵カードの使用を行う。また、選択肢の提供や短い言葉で具体的に伝えるなどの配慮を行っている。
	③⑦ 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか		○		法人で年に1回地域住民等を招待する秋まつりを開催している。
非常時等の対応	③⑧ 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知しているか		○		防犯、地震マニュアルは未策定。訓練実施に関しては保護者に周知出来ていないため重要事項の説明時や連絡帳等でお伝えしていく。
	③⑨ 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			火災訓練は年に2回、水害訓練は1回行っている。実施後は報告を書面にて保護者へ配布している。
	④⑩ 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等適切な対応をしているか		○		虐待防止の外部研修を受けたスタッフが園内研にて復命を行い、虐待を防止する為に組織に対してできること・個人で取り組めることをグループワークを通し一人ひとりが意識できるようにする。
	④⑪ どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか			○	身体拘束にかかる行為については組織的な話し合いと判断が必要。その上で保護者に説明、了解を得るよう努める。危険人知力が乏しく車道等で行動の制限が必要な場合は児童発達支援計画に記載し保護者の同意を得ている。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
非常時等の対応	④②	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか		○		食事の提供は行っておらず、保護者の判断による弁当持参の為、現在医師の指示書が必要な子どもが在籍していない。面談で保護者からの聞き取りにより対応している。おやつはアレルギーでないものを提供。
	④③	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			事例として件数は少ないが、日頃からヒヤリハットにつながる気付きを出し合うことが必要。